

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

# はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

2015年3月号

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー  
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー  
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23  
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第562号

二月一日の未明、後藤健二さん殺害と報じられ、以降、何とも心が晴れない。

翌週、ある祈禱会にて、次のような説教に触れた。深い失望・絶望が日本と世界を席卷し、我々の心も身体も凍え切つてしまい、あなたも「全地球凍結」のようだ、ある牧師はそう語った。

「全地球凍結」とは、地球全体が赤道付近も含め完全に氷床・海水に覆われた状態。地球の歴史(四六億年)において、二二億年前、七億年前の二回起こつたとのこと。

生命体にとって絶対的な危機であったが、その状況の最中、細胞構造を変化させた

り、コラーゲンで身体を覆つたり、大型化するなど、生命体は環境に耐え得る革新的な進化を起こし、生き延び、後の発展に至つたというのだ。失望や悲しみを抱え、ただ絶望へと陥つていくのではなく、今この厳しさにどう対処するかを神に問われているのでは、とのメッセージ。その後にもI.S.関連の事件は後を絶たない。これに対してアメリカ、またヨルダンやエジプトも空爆に加わり、憎し

みは世界的に連鎖し、私たちの心・身体も全凍結に近い。『マタイ福音書二四章の「小黙示録」を思わされる。「戦争の騒ぎや戦争のうわさを聞く」(六節) 毎日、「不法がはびこるので、多くの人の愛が冷える」(十二節) 現実には直面している私たちがいる。\* \* \* \* \*

二月二三日の「朝日新聞」

## 全地球凍結



古賀 博

関東運営委員

論壇時評、「寛容への祈り」『怪物』は日常の中にある「高橋源一郎」に田原牧氏の言葉が引かれ、「彼らは決して怪物ではなく、私たちの世界がはらんでいる病巣の表出ではないか」とある。問題の根は、世界に、そして私たちに巣くう「他者への共感」を一切排除する心情にあり、これを高橋氏は「怪物」と表現して論

困窮生活の只中、母親から「殺しても金を奪い取つてこい」と命じられた当時一六歳の少年。祖父母のもとに出かけ、包丁で彼らを刺し殺して僅かな金品を奪つた。

小学校四年時に両親は離婚、母親はほとんど家に戻らず、家族の生活は赤貧を極める。母親に翻弄され、学校にも通えず、母親の交際相手からは暴力を受け続けた少年。彼は母親と二歳の妹を養うために就職し、寮に家族で住

み込んで働く。しかし、母親の求めで給料の前借りを始め、ついに受け取る給料が全額穴埋めに充てられるようになり、そして事件へ。

裁判長は、元父親(証人)に「あなたただけではないが、周りに大人がいて、誰かが少年を助けられなかったのか」と厳しく問うたとのこと。

この裁判長は、懲役一五年を言い渡す際、「君のことを思う人と一緒に、君が再び社会に帰ってくるのを、我々も待つていようと思つ」と、少年に語りかけたのだという。

ここに、神のみ声が確かに響いていると感じている。「愛が冷える」現実の最中であっても、聖書の求める隣人愛に生きよ、自らに巣くう「怪物」と闘い、とかく見過ごされる小さき者へと思いを寄せ、共感性の回復へと一歩踏み出せ、そんな声が聴こえる。

現在の「全地球凍結」状況に抗して、信仰の進化(深化)を祈りつつ進もう。あの少年を待つとは、凍てつくこの世界と人とを温め溶かす、そんな決意と行動をもってしか為し得ない業ではないか。(日本基督教団早稲田教会牧師)

関東活動センター

●関東フォーラム 宗教対話―

「古典で読む20世紀」

第2回〜第4回

2014年7月25日(金)、10月24日(金)

2015年1月23日(金)

ファシリテーター&テューター

農村伝道神学校講師 武田 利邦さん

日本キリスト教団早稲田教会ロビー

「古典で読む20世紀シリーズ」は、参加者は各回、7, 8, 3人と少数ながら、全回通しての参加者もあり、充実した学びの時間・空間を共有できた。

表面的には全く異なるようにみえる3人の巨人が、腐敗してゆく19世紀のヨーロッパ社会とそれを支えた「実定宗教」としてのキリスト教に対して、鋭い批判の目を向けたという点で、共通していることを改めて認識した。これら19世紀の問題は今の日本に顕著に出現している。

第2回 マルクスについて多くの人が「過去」の思想と考えているが、それはまったくの誤解であり、「疎外され

た労働」は今、日本の社会が直面している問題であり、われわれはもう一度彼のことばに耳を傾けなければならぬだろう。今、ピケティ『21世紀の資本』に注目が集まっているのはそのことの表れと

言ってよいだろう。第3回 ニーチェは「反キリスト教」の思想家として知られているが、自ら「牧師の家系」に生まれたことを誇りに持ち続け、ただひとりのキリスト者であった十字架にかけられた「あの方」に寄せ

深い思いを読みとらずに、彼の「反時代的考察」を受け止めることは難しい。第4回 キルケゴールは、言葉の問題(デンマーク語)

もあり、「死にいたる病」や、「不安の概念」の陰鬱な北欧の変わり者というのが日本での一般的な理解であるが、今回取り上げた「現代の批判」はヤスパースが「昨日書かれたようだ」といったように、その後170年近くたった今も「昨日書かれたよう」に響いてくる。

キルケゴールはバルトが「入学し、その後卒業すべき学校」といったように、今日のキリスト教を考えるうえで、欠くことができない、にもかかわらず、あまりに難解で、アクセスが困難というのが正直なところではないか。日本のキリスト教が今日かかえている問題が、「国家との関係」において、彼が晩年激しく戦ったデンマークの「国家教会」と共通であるとすれば、『キルケゴール教会闘争の研究』(大谷愛人著)は今私たち「異教の国」のマインリテイヤキリスト者が必読の文献だろう。

2015年、第二期の企画では、サルトル、レーニン、カソーン、バルトという20世紀の思想家を取り上げる予定。(武田利邦)

二〇一四年度の「聖書講座」(計一〇回)は、「新しい聖書の学び―イエスの世界の女性たち」(講師・山口里子さん)として開催。毎回、一八〜二六名の参加者を与えられ、有意義な学びの時となった。今回、車で片道二時間以上をかけて参加してくださった水戸教会の牧師・伝道師の感想をもつて報告に代えたい。

●聖書講座2014〈新しい聖書の学び〉  
「イエスの世界の女性たち」(全10回)

日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター 山口 里子さん

2014年4月8日(火)〜2015年2月10日(火)

早稲田奉仕園スコットホール

共催：早稲田奉仕園

てくれたと感じています。特にヨハネ共同体には、イエスとの出会いを礎としたからこそ時に毅然と権力に抗し、時にはしたたかにいのちを守ろうとした者たちがいたのでないかという読み解きは、放射能汚染の実態や沖繩の辺野古・高江の基地建設阻止行動、あるいは空爆下に生きる子どもたちや女性たちのいのちと「今こそ共に歩もう」という呼びかけとして響いてきています。学びと出会いに感謝。(橘 秀紀・水戸教会牧師)

「歴史の記述・知識は常に文化とイデオロギーを背負い込んでおり、決して価値観中立・客観的ではありません」(p.21)。キリスト教・聖書の中における男性中心主義的なものに触れる中で違和感を覚えていた私はこのことを改めて考えさせられる機会となり



12月13～14日、講師に伊藤正子さん(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究

●2014年度「開発教育セミナー」第6回 「ベトナム戦争後のベトナムと日本の原発輸出」

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科准教授 伊藤 正子さん 2014年12月13日(土)～14日(日)

関西セミナーハウス活動センター

ました。そしてそれは同時にその中で私自身も生きてきたのだという気づきでもありません。しかし今回の講座を通して私が感じていた違和感は私だけのものではなかったこと、また何よりそれに対してアクションを起こす力や方法を与えてくれた学びとなったように思います。

科教員)を招き、「ベトナム戦争後のベトナムと日本の原発輸出」をテーマにセミナーを開催した。16名の参加者があり、2日間にわたり現状や背景を詳細にわたり学び合っ

「私たちのキリスト教伝統だけを宇宙の中心に置く見方を改めるのを恐れることがありませぬように」(P.290)自分はどこに立っているだろうか、出会う人たちはどこに立っているだろうか、その学び・気づきを常に忘れずにいたいと願います。(玉置千鶴子・水戸教会伝道師)

や動向が紹介された。実際にベトナムで取材したことをもとに語られ、メディアでは紹介されない詳細なことがらを通して理解することができた。日本の推進派は、日本の原子力政策のために都合よくベトナムを利用し、ベトナム政府やベトナムの推進派も利害が合致し、知識人の批判を規制し、無批判に原発輸出を

進めている。私たちの行動が大切である。2日目は、ベトナム戦争下の韓国軍の戦争責任を自分たち自身に問う韓国市民の活動が紹介された。その活動は韓国・ベトナム両国内で妨害されるが、人間同士が理解し合うために、屈することなく調査と対話を続けた人々の姿勢に胸を打たれた。

原発輸出は、私たちの思想や倫理観が厳しく問われるものである。両日を通して、ベトナムに関わる幅広い分野にわたる質問にも的確に答えていただくことができ、研究者を招いてセミナーを開催する利点が十分に活かされたと考えます。

賛助会費・寄付金報告(1)

2014年12月1日～2015年1月31日 (順不同・敬称略)

◆財団本部

寄付金

武藤 高司 10,000  
日本基督教団早稲田教会 50,000

◆関東活動センター

賛助会費

島田 治夫 2,500  
森野 善右衛門 5,000  
清水 勝彦 5,000  
吉田 豊 5,000  
千葉 拓司 5,000  
木下 庸子 5,000  
松井 直樹 5,000  
飯島 隆輔 5,000  
萩原 隆司 5,000  
木原 諄二 5,000

寄付金(クリスマス寄付金を含む)

小林 誠治 10,000  
藤 知佳 5,000  
高德 芳忠 5,000  
宮本 旻祐 5,000  
立原 敬一 5,000  
中井 博雅 10,000  
山田 利三郎 5,000  
大坪 正雄 5,000  
石橋 光朗 5,000  
佐藤 恵理子 5,000  
村上 公彦 5,000  
市川三本松教会 3,000  
恵泉女学園中高・宗教部 10,000

恵泉女学園中高・宗教部 10,000  
板橋大山教会 4,000  
在日本韓国YMCA 10,000  
大脇 順和 10,000  
吉見 崇一 2,000  
清水 勝彦 5,000  
千葉 拓司 2,500  
木下 庸子 2,500  
立石 昭三 10,000  
林 律 5,000  
飯田 庸子 2,000

神学生交流プログラム募金

外谷 悦夫 5,000  
松原 千里 2,000  
伊藤 博子 2,000  
宮本 旻祐 5,000  
斉藤 宏 3,000  
千葉 拓司 2,500  
木下 庸子 2,500  
神保 正男 10,000  
飯島 隆輔 5,000  
篠原 文浩 5,000  
佐藤 恵理子 5,000  
上原 秀樹 3,000  
農村伝道神学校 30,000  
千代田教会 5,000  
高柳 富夫 10,000  
横野 朝彦 10,000  
関西学院大学神学部 30,000  
神戸栄光教会 10,000

次ページに続きます。

プログラム案内

◆関東活動センター

■聖書講座2015「新しい聖書の学び」

「イエスの譬え話」に響く声(全10回)

講師：山口里子さん(日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時：①2015年4月14日②5月12日

火曜 18:30～20:00

会場：早稲田教会ロビー

参加費：1,200円/学生500円(全10回割引10,000円)

テキスト：『イエスの譬え話1』

共催：早稲田奉仕園

■聖書講座(入門編)

「まちがったっていいじゃないか!」の福音書

一マルコによる福音書を読んでみましょう(全5回)

講師：柳下明子さん(日本キリスト教団武蔵野緑教会・日本聖書神学校教授)

日時：④4月16日⑤5月21日、木曜 14:00～15:30

会場：早稲田奉仕園セミナーハウス100号室

参加費：1,200円/学生500円

共催：早稲田奉仕園

■関東フォーラム宗教対話I

「古典で読む20世紀 第II期」(全4回)

第1回「『同時代人サルトル』長谷川宏」

日時：2015年5月22日(金) 18:30～20:30

講師：武田利邦さん(農村伝道神学校講師)

会場：早稲田教会ロビー

財団本部 <http://www.academy-nippon.com>

関東活動センター <http://www.academy-tokyo.com>

関西セミナーハウス <http://www.kansai-seminarhouse.com/>

関西セミナーハウス活動センター <http://www.academy-kansai.org>

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

代表理事 小久保 正

本部事務局

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23

TEL 075-711-2147

FAX 075-701-5256

関東活動センター

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18

日本キリスト教会館6F

TEL 03-3207-6198

E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス /

関西セミナーハウス活動センター

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23

FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス

TEL 075-711-2115

E-mail:info@kansai-seminarhouse.com

関西セミナーハウス活動センター

TEL 075-711-2117

E-mail:office@academy-kansai.org

参加費：500円(4回連続1,500円)

◆関西セミナーハウス 修学院きらら山荘

■月釜 清心会

日時：2015年4月12日(日)

9:00～15:00受付

(1、8月を除く年10回)

於：関西セミナーハウス

年会費：5,000円、臨時会費1,000円

◆関西セミナーハウス活動センター

■能を楽しむタバ 林宗一郎の能楽入門

第22回 能『楊貴妃』

日時：4月17日(金) 17:30～

解説・出演：林宗一郎さん(観世流

能楽師)

会場：関西セミナーハウス

定員：50名

能観賞料金：2,000円/学生1,000円

■2015年度修学院フォーラム「いのち」

第1回「なぜ、脳死・臓器移植は

推進されるのか—いのち・倫理・人

間の尊厳をめぐる」

講師：小松 美彦さん(武蔵野大学教養教育部教授)

日時：2015年5月16日(日)

13:30～17:30

会場：関西セミナーハウス

参加費：一般2,300円、学生1,000円

竹中 正夫コレクション  
「アジアキリスト教美術  
作品と関連資料」寄贈  
この度、竹中百合子様(元財  
団理事長竹中正夫氏夫人)より、  
竹中先生が生前に蒐集された約  
一二〇点のアジアキリスト教美  
術の作品と、関連資料が当財団  
に、寄贈されました。  
感謝をもってご報告いたしま

賛助会費・寄付金報告(2)

2014年12月1日～2015年1月31日  
(順不同・敬称略)

◆関西セミナーハウス

寄付金

- 山内 博 10,000
- 亀井 好美 3,000
- 首藤 達雄 5,000
- 野嶋 和雄 10,000
- 福原 吉孝 5,000
- 垂水百合子 3,000
- 森口維邦子 10,000
- 津田 友一 5,000
- 株式会社アイウィル 50,000
- ジ・エアーズ 菅原直人 10,000
- 小倉 朗 5,000
- 株式会社柴橋商会京都支店 30,000
- 俣野 博 250,000
- 上野塗工株式会社 20,000
- 廣田 吉久 10,000
- 柳井 繁彌 3,000
- 京都音楽教育の会 山本誠 30,000
- 玉屋珈琲店 玉本久雄 10,000
- 土田商店 土田 敏正 5,000
- 中村 雄啓 3,000
- TMI総合法律事務所 300,000
- 株式会社ビーテック 30,000
- ワケンホールディングス株式会社 50,000
- 盛京会 5,000
- 中井 博雅・弘子 5,000
- 武藤 高司・資子 5,000
- 野嶋 和雄・幸子 5,000
- 岡本 仁彦・泰子 5,000

◆関西セミナーハウス活動センター

- 賛助会費
- 小山 稔 5,000
- 蔭山 淳 10,000
- 古賀 暢子 5,000
- 医療法人渡辺クリニック 10,000
- 島田 誠一 5,000
- 友前 尚子 5,000
- 西岡 裕芳 5,000
- 菅 恒敏 5,000
- 山本 貞子 5,000
- 白方 誠彌 10,000
- 内藤 弘子 5,000
- 關岡 一成 5,000

寄付金

- 日本基督教団世光教会 50,000
- 坪野 えり子 3,000
- 平林 喜博 3,000
- 小久保 正 10,000
- 根岸 宏邦 10,000
- 古賀 暢子 5,000
- 家形 日出 10,000
- 藤谷 正一 3,000
- 中山 晴美 3,000
- 藤倉 寿美子 3,000
- NPO法人沢内伯楽 10,000
- 橘 俊子 10,000
- 松原 千里 3,000
- 西川 和江 5,000
- 林 律 10,000
- 千里山キリスト教会 30,000
- 公益財団法人京都YMCA 5,000
- 日本キリスト教会吉田教会 5,000
- 関西青年アシュラム 10,000
- 立石 昭三 10,000
- 茂 洋 5,000
- 今井 奈都子 2,000
- 保田 茂登 1,000
- 中井 博雅 10,000
- 中島 健二 10,000
- 福島 旭 10,000
- 日本基督教団洛南教会 5,000
- 浦 晴子 20,000
- 高橋 望 2,000
- 日本聖公会桃山キリスト教会 5,000
- 神戸ドイツ語教会 20,143
- 日本基督教団経堂緑岡教会 10,000
- 加藤 聡子 10,000
- 伊藤 茂 3,000
- 神戸ドイツ語教会 19,088
- 日本基督教団平安教会 3,000
- 原田 博充 3,000
- 日野 多栄子 3,000
- 網野 俊賢 2,100
- 日本基督教団倉敷教会 5,000

以上、感謝をもってご報告申し上げます。